

5 R終了後、ヒジで大出血したアラビアンに追い打ちをかける佐久間。大歓声で試合終了のゴングが鳴ります。3分過ぎても両者は打ち合いの手を止めることはなかった。



隠して騙した

ふたつつの衝撃

佐久間、日本人キラーのアラビアンを流血葬。そして試合後、驚きの裏話が明らかになった。

全日本キックボクシング BURNING-III 燃焼 4月29日 ●東京・メッセ昭島

百戦錬磨の笑う男の裏をかいた笑わない男

作ってやり返すが、この手の戦法はキャリアに勝るアラビアンの方が一枚も二枚も上。やはり、M.F.クルールの異名を持つ佐久間に、相手を挑発するような表情は似合わない。笑う男と笑わない男

- メイン・イベント/日本・タイ国際戦/58"・契約3分5R(第7試合)
◎全日本キックボクシング
- ◎佐久間晋哉 (ハズキF.S.G.所属) (181", 57.6", 27歳)
(5R判定3-0) ●保高-10:21, 50:47, 50:48
- アラビアン・ゲッリバー (180", 56.8", 28歳)
(タイ国アムサール) ●アラビアンは5Rにパンチ連打でダウンを喫した



◎花束を手に花道を引き上げる佐久間。いつものまにかチャンピオンとしての矜持もついで



なんとNJKF代表の藤田真氏が鳴島大会を観戦。さらにアラビアンのセコンドには東北福祉ジムが訪れた。昨日の戦いは今日の友。全日本キックとNJKFとの間で何かが起こらうとしている



すでにお馴染みとなったGAORA「全日本キック中継」のゲストには小林聡が登場。同番組の放送は5月16日(土)22時~24時。なお再放送は5月17日(日)12~14時と23日(土)24~26時の2回。要チェック!

ふたつつの衝撃があった。ひとつは佐久間がギックリ腰を隠して試合に臨んだこと。全日本フェザー級王者の腰に痛みが走ったのは、試合の3日前。もし佐久間が並の選手だったら欠場していたかもしれないが、今回は所属ジムから車で至近距離のメッセ昭島の興行。しかも佐久間の試合はメインに組まれていたため、欠場するわけにはいかなかった。整体・針。佐久間は必死に治療を続け、なんとか体を動かすことができた。佐久間は必死に治療を続け、なんとか体を動かすことができた。佐久間は必死に治療を続け、なんとか体を動かすことができた。



アラビアンの魔法にはかからない!

アラビアンの首をとって強引に飛びヒザ蹴りを狙う佐久間。中盤からは完全に試合の主導権を握った

はミドルを打つふりをして金心の左ハイをヒットさせたのだ。過去アラビアンは日本人選手に何度か負けた経験があるが、おそらく日本人選手が仕掛けてきたフエイントに引っかけたのは、このときが初めてだったのでないだろう。もしかしたら日本人に敗北を喫することより、騙されたという事実のほうがショックだったかもしれない。それから試合の流れは、完全に佐久間に傾いた。だがアラビアンも簡単に勝算を捨てない。何しろ現在は日本人女性と婚約中の身。途中で試合を控えるような真似は絶対にできなかった。5R開始早々、勢いよく前に出る。もっとも両者の体格差は歴然。アラビアンが佐久間に何かをヒットさせるためには一歩踏み込まなければならない。その間合いを活かして佐久間はパンチやヒジの乱れ打ち。ついにアラビアンを大流血に追い込むとともに、ダウンを奪った。



ラウンド	サトウ中村	少白竜	山中教雄
1	10	10	10
2	10	10	10
3	10	10	10
4	10	9	9
5	10	8	8
計	50	47	46

◎試合中、何度も微笑を浮かべたアラビアン。ときにはアッカンベーなど佐久間をおちよくするポーズをする場面も。対照的に佐久間はほとんど顔色ひとつ変えることなく闘い続けた



◎佐久間の地元新潟から大勢して応援団が上京。試合後は佐久間の父が息子の勇をねぎらいつつ控室に戻った。『内容的には予想外、僕の實力がなかった。もうちょっと早くパンチでいけば(佐久間)』



全日本キックボクシング BURNING-III 燃焼 4月29日 ●東京・メッセ昭島

鈴木達也・宿敵・大谷浩二を相手に初防衛!

◎過去、鈴木(右)2勝、大谷1勝と、4度目の対決となったこの一戦。ヒザ蹴りとパンチで攻める大谷に対し、鈴木はパンチとヒジ打ちで応戦し、意地と意地とがいつか合う白熱した展開となった



◎セミファイナル/全日本ウェルター級タイトルマッチ3分5R(第6試合)
△鈴木達也 (杉本博典所属) (175", 64-65", 23歳)
(5R判定1-0) ●保高-10:21, 50:47, 50:48
△大谷浩二 (佐藤典典所属) (180", 66-71", 27歳)
●鈴木が王座を防衛



◎ライト級挑戦者決定トーナメント準決勝として行われた第5試合、金沢久幸(右・富士船)vs工藤正泰(藤)戦。両者がパンチと蹴りを激しく打ち合うが、金沢の右ヒジ打ちで工藤の左腕がカット。2R1分0秒ドクターストップにより、金沢がTKO勝利を飾った